

200936034A

厚生労働省特定疾患

門脈血行異常症調査研究班
平成二十一年度研究報告書

平成 22 年 3 月

班 長 森 安 史 典

厚生労働省特定疾患

門脈血行異常症調査研究班
平成二十一年度研究報告書

平成 22 年 3 月

班 長 森 安 史 典

序 文

昭和59年、厚生省特定疾患「門脈血行異常症」調査研究班が編成された。これは、昭和50年以来、厚生省特定疾患「特発性門脈圧亢進症」調査研究班が検討を行っていた、特発性門脈圧亢進症（IPH）に、肝外門脈閉塞症（EHO）およびバッドキアリ症候群（BCS）を対象疾患として加え、再編成されたものである。

当研究班は、亀田治男（昭和59年～同63年）、小幡裕（平成元～同3年）、二川俊二（平成4～同7年）、杉町圭蔵（平成8～同13年）、橋爪誠（平成14～同19年）、森安史典（平成20年～）の各班長に引き継がれ、今日に至っている。

この間、多くの班員、研究者の努力により、これらの疾患の病因、病態、病理、疫学、診断、治療、および予後などについて精力的に研究が推進された。特に IPH では、肝硬変症との差異、および IPH 特有の門脈血行動態が明らかになった。病因に関しては、末梢リンパ球 Autologous mixed lymphocyte reaction (AMLR) の低下、脾内リンパ球T細胞サブセットの変化など、自己免疫異常を示唆する病態が明らかになってきた。

さらに、3疾患の病因・病態の解明は、分子生物学的解析や遺伝子解析を行うことで、新たな展開を迎えた。マイクロアレイなどの最先端の分子生物学的手法を使い、IPH には、Connective tissue growth factor (CTGF) が過剰発現し、Heme oxygenase-1 (HO-1) の発現が低下していることを発見した。また、ネパール、カナダにおける BCS の検討を行い、国際間比較もなされた。

一方、社会的には、平成10年度に、BCS が治療研究対象疾患に採択されたことは、患者にとって大きな福音となった。平成12年12月には、「門脈血行異常症の診断と治療（2001年）」を基準として設定し、昨年度これを改訂し「門脈血行異常症の診断と治療のガイドライン（2007年）」として新基準を作成することができたのは大きな成果である。

未だ門脈血行異常症3疾患の病因は不明であるが、IPH における免疫異常や血管増殖因子の関与、BCS、EHO における凝固線溶系の異常と遺伝子異常が次第に明らかと成りつつあり、研究は着実に進歩している。

最新の分子生物学的、遺伝子学的アプローチのみならず、臨床的には、医用画像工学など、幅広い手法で研究をつづけることで、更なる原因解明ができるものと期待される。そして、これらの原因解明の成果を、臨床の場で、診断・治療に応用することが今後の課題である。

本年度も、分子生物学的手法を駆使した基礎的なものから臨床研究まで、幅広い研究がなされた。IPHでは、肝、脾組織内および末梢血において制御性T細胞（Treg）が減少しており、免疫亢進状態が惹起されている可能性が示唆された。IPH病態解明のため質量分析による臨床プロテオーム解析が導入され、IPH 肝における特異的蛋白の検索と、蛋白ネットワークの解析質量分析が行われた。本研究班の検体保存センターに収集された BCS と EHO 症例の検体を用いて、アンチトロンビン遺伝子 (SERPINC1) を解析しその変移検出を試みている。その結果、BCS、EHO 症例では、SERPINC1 遺伝子に数種の SNP を認めたが、門脈血行異常症に特異的な遺伝子変異は検出されなかった。

一方、臨床分野では、FICE (Flexible Imaging Color Enhancement) を併用した内視鏡により、食道静脈瘤の診断能が向上したこと、造影超音波画像のコンピューター自動計測により、肝硬変における肝内門脈枝の特異的な変化が起きていることなどの画像診断の進歩が報告された。外科的な検討では、遠位脾腎静脈吻合術 (DSRS) の治療成績を、特発性門脈圧亢進症 (IPH) と肝硬変で比較し、IPH におけ

る食道静脈瘤の治療法として、DSRS の治療成績がよいことが示された。

今年度も、ここに研究成果をとりまとめることができ、各疾患の病因、病態の解明に貢献することができたと確信している。

最後に、厚生労働省保健医療局疾病対策課のご指導、ご支援に厚くお礼を申し上げるとともに、本研究班の班員、研究協力者の先生方、ならびに関係諸氏に深く感謝する次第である。

平成22年3月

厚生労働省難治性疾患克服研究事業
門脈血行異常症に関する調査研究

班長 森 安 史 典

目 次

序 文

I. 総括研究報告

門脈血行異常症に関する調査研究

東京医科大学消化器内科 森安 史典 … 1

II. 分担研究報告

1. 日本病理学会の日本病理解剖輯報のデータベースに基づく門脈血行異常症の実態解析

久留米大学病理学教室教授 鹿毛 政義 … 19

2. IPH における抗血管内皮細胞抗体の出現

金沢大学医薬保健研究域医学系形態機能病理学教授 中沼 安二 … 23

3. 特発性門脈圧亢進症と免疫異常

昭和大学内科学講座消化器内科学部門講師 馬場 俊之 … 26

4. IPH肝組織特異タンパクのネットワーク解析

大阪市立大学大学院医学研究科核医学教授 塩見 進 … 28

5. 門脈圧亢進症における血液凝固関連因子の検討 - 門脈血栓との関連について

千葉県立保健医療大学教授 松谷 正一 … 31

6. 門脈血行異常症におけるアンチトロンビン遺伝子変異解析

名古屋大学医学部教授 小嶋 哲人 … 36

7. 全国検体保存センターの登録及びデータ解析について

九州大学大学院医学研究院教授 橋爪 誠 … 40

8. Budd-Chiari 症候群患者の予後について - 臨床調査個人票による解析 -

大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学教授 廣田 良夫 … 42

9. 脾腎シャントによる肝性脳症に対して脾摘+シャントバインディングを施行した一例

久留米大学病理学教授 鹿毛 政義 … 48

10. 悪性リンパ腫に合併したBudd-Chiari 症候群の1例

大分大学第一外科教授 北野 正剛 … 53

11. 難治性腹水を併発したBCSの症例に対して、下大静脈からの直接穿刺によるTIPSを施行した一例

東京医科大学消化器内科教授 森安 史典 … 56

12. 食道静脈瘤診断の未来～FICE併用経鼻内視鏡検査の観点から～

東京医科大学消化器内科教授 森安 史典 … 59

13. 造影超音波を用いた肝線維化のコンピューター支援診断 (CAD) に関する研究	東京医科大学消化器内科教授 森安 史典 … 63
14. バッドキアリ症候群に対する流体力学解析～臨床例の検討～	九州大学大学院医学研究院教授 橋爪 誠 … 66
15. 一時的門脈血行閉塞および再灌流後の肝組織の変化に関する研究による肝組織の変化	長崎大学大学院移植・消化器外科教授 兼松 隆之 … 69
16. 食道胃静脈瘤の治療方針とその成績	大分大学第一外科教授 北野 正剛 … 74
17. 小児生体肝移植における直接的肝流量計計測による肝血行動態の検討	順天堂大学肝胆膵外科教授 川崎 誠治 … 77
18. バッドキアリ症候群手術における右心房までの拡大法に関する検討	琉球大学医学部機能制御外科教授 國吉 幸男 … 79
19. 特発性門脈圧亢進症における遠位脾腎静脈吻合術の有用性	日本医科大学多摩永山病院外科准教授 吉田 寛 … 82
20. 脾臓がT細胞応答に与える影響の検討	九州大学大学院医学研究院消化器総合外科学教授 前原 喜彦 … 84
III. 研究成果の刊行に関する一覧表 ……………	89
IV. その他	
平成21年度門脈血行異常症班会議総会プログラム ……………	97
門脈血行異常症の診断と治療のガイドライン ……………	100
平成21年度門脈血行異常症調査研究班名簿 ……………	107

I. 總括研究報告

門脈血行異常に関する調査研究

主任研究者 森安 史典（東京医科大学 内科学第4講座主任教授）

研究要旨

本研究班では、原因不明で門脈血行動態の異常をきたす、特発性門脈圧亢進症（IPH）、肝外門脈閉塞症（EHO）、バッドキアリ症候群（BCS）を対象疾患として、その病因病態解明のため、1）病理学的・分子生物学的検討、2）臨床的検討、3）疫学的検討、の各側面から研究を行った。基礎的分野では最新の分子生物学的手法を用いることで、門脈血行異常症の病因病態をより深く解明することができた。また、臨床分野では、門脈血行異常症の全国疫学調査が10年ぶりに行われ、本邦におけるIPH、EHO、BCSの現状が明らかにされた。さらに門脈血行異常症における治療成績・予後に関する全国調査も新たに行い、治療の現状が明らかになった。そして、これらの結果をもとに、当研究班で作成された基準「門脈血行異常症の診断と治療（2001年）」を改訂し、「門脈血行異常症の診断と治療のガイドライン（2007年）」として新基準を作成した。

分担研究者

橋爪 誠（九州大学大学院医学研究院災害・救急医学）
兼松隆之（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科移植・消化器外科）
川崎誠治（順天堂大学医学部肝胆脾外科）
北野正剛（大分大学医学部腫瘍病態制御講座第一外科）
前原喜彦（九州大学大学院医学研究院消化器・総合外科）
馬場俊之（昭和大学医学部消化器内科学）
塩見 進（大阪市立大学大学院医学研究科核医学）
小嶋哲人（名古屋大学医学部保健学科検査技術科学専攻）
國吉幸男（琉球大学医学部生体制御医科学講座機能制御外科学分野）
廣田良夫（大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学）
中沼安二（金沢大学大学院医学系研究科形態機能病理学）
鹿毛政義（久留米大学医学部病理学教室）
松谷正一（千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科）
吉田 寛（日本医科大学多摩永山病院外科）

A. 研究目的

本研究班の研究目的は、原因不明で門脈血行動態の異常を来す、特発性門脈圧亢進症（IPH）、肝外門脈閉塞症（EHO）、バッドキアリ症候群（BCS）など

を対象疾患として、これらの疾患の病因および病態の追求とともに、患者発生状況、治療法、予後などの実態を正確に把握し、予後の向上のために診断、治療上の問題点を明らかにするところにある。

B. 研究方法

IPH、EHO、BCSの病因病態の解明のため、以下の項目に研究課題を分担して検討を行った。

- 1）病理学的・分子生物学的検討
- 2）臨床的検討
- 3）疫学的検討

なお、各項目の検討に際しては、当疾患が極めて稀である状況から、検体保存センターの症例及び検体を有効に活用した。また、特に病理学的検討及び分子生物学的検討では、国際間比較のため本邦だけでなく国外の症例に関しても積極的に研究対象としている。

（倫理面への配慮）

研究対象者から血液を採取して遺伝子異常の検討を行うにあたり、ヒトゲノム・遺伝子解明研究に関

する倫理指針（平成13年3月29日文科科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号）を遵守するとともに、各大学における倫理委員会の承諾を得た。

C. 研究結果および考察

【病理学的・分子生物学的検討】

馬場らは、特発性門脈圧亢進症（IPH）における免疫異常の関与を検討している。IPHでは、肝、脾組織内および末梢血において制御性T細胞（Treg）が減少しており、免疫亢進状態が惹起されている可能性を示唆している。

塩見らは、IPH病態解明のため質量分析による臨床プロテオーム解析を導入し、IPH肝における特異的蛋白の検索と、蛋白ネットワークの解析質量分析を行っている。IPH肝臓においてcollagen type 1、fructose-1,6-biphosphatase 1、diazepam binding inhibitorが高発現していた。ネットワーク解析において、heat shock proteinの発現が目目された。

小嶋らは、本研究班の検体保存センターに収集されたBCSとEHO症例の検体を用いて、アンチトロロンピン遺伝子（SERPINC1）を解析しその変移検出を試みている。その結果、BCS、EHO症例では、SERPINC1遺伝子に数種のSNPを認めたが、門脈血行異常症に特異的な遺伝子変異は検出されなかった。

中沼らは、全身性硬化症（SSc）にみられる抗血管内皮細胞抗体（anti-endothelial cell antibody, AECA）が、SScと病態が似ているIPH患者血清に検出されるかを検討している。AECAのIPHにおける陽性率は対照群に比べて統計学的に有意ではないものの、増加する傾向を見いだした。IPHの病態形成にAECAが関与している可能性を示唆するものである。

鹿毛らは、日本病理剖検輯報に登録されたIPH症例を対象に解析を行った。327例のIPH剖検例を検討し、疫学的な側面、合併症の分析、肝悪性腫瘍の合併頻度とその病理像を検討した。

橋爪らは、検体保存センターの運営について報告した。当研究班では、三疾患の病因・病態を解明することを目標とし、平成9年に検体登録制度および全国検体保存センターを設立し、検体保存センター

の再編（新検体保存センターの設置）も行っている。新検体保存センターの設置後には、九州大学大学院消化器・総合外科と長崎大学大学院移植・消化器外科より症例登録がなされ、平成22年2月現在で新たに計30症例の検体登録がなされた。

【臨床的検討】

森安らは、第2世代の超音波造影剤と、超音波の造影手法であるMicro flow imaging (MFI)を用い、肝硬変肝の微小な門脈枝を描出し、その変化をコンピュータ支援診断（Computer aided diagnosis, CAD）を用いて定量的に解析している。門脈血行異常症に特異的な画像特徴を抽出することに成功し、今後の門脈圧亢進症の診断に寄与すると思われる。

また、森安らは、光波長を分析して表示する、新しい内視鏡システムFlexible imaging color enhancement, FICEを用いて、食道静脈瘤の観察を行い、出血のリスクを予見する内視鏡の画像特徴を見いだした。

兼松らは、一時的門脈閉塞およびその後の再灌流による、門脈閉塞葉と非閉塞葉の経時的变化をラットを用いて検討した。虚血後再灌流が肝再生のトリガーになること、再灌流後48時間ではPCNA labeling indexも増加し、修復機転を認めることを見いだした。

川崎らは、門脈圧亢進症の肝移植術について検討した。肝左葉グラフトを用いた成人生体肝移植と肝外側区域グラフトを用いた小児生体肝移植における血行動態の変化を、血流を直接計測することで比較検討した。小児においては、再灌流後、レシピエント門脈血流量／総肝血流量比は、ドナーのそれとほぼ同率に回復していることを見いだした。

北野らは、食道胃静脈瘤の治療成績を検討した。内視鏡的硬化療法、内視鏡的静脈瘤結紮術、バルーン下逆行性経静脈的塞栓術（B-RTO）の治療成績を比較し、内視鏡的治療を第一選択にすべきとの結論を得た。

前原らは、手術により摘出した脾臓を使うことにより、ヒト脾臓が宿主のT細胞応答に与える影響を

調べている。脾臓は PD1/PD1 リガンドを介して末梢免疫寛容の誘導を部分的に担うことを示した。また、このシグナルの亢進を認めることから、脾摘後に、CD4T 細胞の Th1 応答性が回復することを示した。

吉田らは、食道静脈瘤に対する手術療法としてシャント手術と直達手術があるが、遠位脾腎静脈吻合術 (DSRS) の治療成績を、特発性門脈圧亢進症 (IPH) と肝硬変と比較し、IPH における食道静脈瘤の治療法として、DSRS の治療成績がよいことを示した。

國吉らは、Budd-Chiari 症候群 (BCS) 手術療法について検討している。BCS の手術においては、右心房までの拡大手術法が有用であることを、自験例を用いて示した。

松谷らは、門脈血行異常症の門脈血栓形成の背景にある血液凝固不活化機構の異常について検討を行っている。特発性門脈圧亢進症では血栓の合併が抗凝固因子低下例から正常例まで幅広く分布しており、抗凝固因子の異常に加えて血管壁や血流の異常などの血行動態因子も門脈血栓の成因として重要であるとしている。

【疫学的検討】

廣田らは、2001年度から2008年度の間に特定疾患医療受給者証の交付を受けた Budd-Chiari 症候群患者の、電子入力された臨床調査個人票の情報を利用し、臨床疫学特性を検討した。受診状況、最近の経過を集計解析した結果、Budd-Chiari 症候群は生命予後が比較的良好であることが示された。しかし、病状の悪化は、新規申請時の腹水、食道静脈瘤、胃静脈瘤、白血球減少、アルブミン現象、ビリルビン異常などが関連する因子であることを示した。

【症例検討】平成21年度の班会議では、各施設の門脈血行異常症の自験例のうち、診断困難例、治療難渋例を持ち寄り検討した。これらの症例の診断、治療に関する情報を共有することによって、今後の研究の方向性が示された。

D. 結 論

最新の分子生物学的手法を用いることで、門脈血行異常症 (IPH、EHO、BCS) の病因病態をより深く解明することができた。

今後、さらなる病因・病態の解明を進め、門脈血行異常症 3 疾患の根本的治療につなげていくのが今後の課題である。

E. 健康危険情報

該当無し。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 森安史典 C型肝炎・肝がん、誠文堂新光社 あなたの医学書 名医の言葉で病気を治すC型肝炎・肝がん、2009
- 2) 森安史典 (監：武藤徹一郎*)、消化器内科医が語る「新しい治療法と免疫細胞治療を組み合わせ、再発を抑える。目指すのは、患者さんにとって負担の少ない治療」、幻冬舎、がん専門医が語るがん治療の新戦略 免疫細胞治療、180-189, 2009
- 3) Liu GJ, Xu HX, Xie XY, Xu ZF, Zheng YL, Liang JY, Lu MD, Moriyasu F, Does the echogenicity of focal liver lesions on baseline gray-scale ultrasound interfere with the diagnostic performance of contrast-enhanced ultrasound?, Eur Radiol 19(5):1214-1222, 2009
- 4) Sugimoto K, Shiraishi J, Moriyasu F, Doi K, Computer-aided diagnosis of focal liver lesions by use of physicians' subjective classification of echogenic patterns in baseline and contrast-enhanced ultrasonography, Acad Radiol 16(4): 401-411, 2009
- 5) Raxiati M, Hirokawa T, Liu GJ, Moriyasu F, Phagocytosis of ultrasound contrast agents and diagnostic low intensity insonation increased the expression of heat shock protein 70 in

- kupffer cells,
J Tokyo Med Univ 67(2): 169-175, 2009
- 6) Moriyasu F, Itoh K, Efficacy of perflubutane microbubble-enhanced ultrasound in the characterization and detection of focal liver lesions: phase 3 multicenter clinical trial, Am J Roentgenol 193(1): 86-95, 2009
 - 7) Sugimoto K, Shiraiishi J, Moriyasu F, Saito K, Doi K, Improved detection of hepatic metastases with contrast-enhanced low mechanical-index pulse inversion ultrasonography during the liver-specific phase of sonazoid: observer performance study with JAFROC analysis, Acad Radiol 16(7): 798-809, 2009
 - 8) Liu GJ, Moriyasu F, Hirokawa T, Rextiati M, Yamada M, Imai Y, Expression of heat shock protein 70 in rabbit liver after contrast-enhanced ultrasound and radiofrequency ablation., Ultrasound Med Biol. 2009 Nov 19. [in press]
 - 9) 中村洋典、山田昌彦、村嶋英学、市村茂輝、平良淳一、杉本勝俊、目時 亮、古市好宏、今井康晴、中村郁夫、森安史典 ラジオ波焼灼療法における治療支援システムとしての Reference Image Viewer の有用性、東京医科大学雑誌 67(3) : 334-340, 2009
 - 10) 今井康晴、森安史典 肝癌 基礎・臨床研究のアップデート：肝癌の診断 画像診断 超音波検査 (US) 血流動態診断 造影超音波検査、日本臨牀 67 (3) : 317-321, 2009
 - 11) 山田昌彦、森安史典 肝癌 基礎・臨床研究のアップデート：肝癌の診断 画像診断 超音波検査(US) 血流動態診断 三次元(3D)、四次元(4D)超音波画像、日本臨牀 67(3) : 327-331, 2009
 - 12) 森安史典 ソナゾイド造影超音波検査の適応のひろがりー肝腫瘍以外への臨床応用の進展と課題ー：ソナゾイド造影超音波検査の課題と展望、INNERVISION 24 (6) : 44-45, 2009
 - 13) 山田昌彦、佐野隆友、森安史典 新世代超音波造影剤導入による肝癌診断・治療の変革：4D超音波による肝癌の診断と RFA の治療ガイドおよび効果判定、消化器科 48(4): 475-481, 2009
 - 14) 今井康晴 肝・胆・膵 ウイルス性肝硬変、治療 91 (4) 増刊 : 968-971, 2009
 - 15) 吉村宜高、齋藤和博、高良憲一、長谷川大輔、柿崎 大、徳植公一、荒木洋一、勝山宏章、佐々木一良、杉本勝俊、目時 亮、森安史典 MR 造影剤の最新動向：Gd-EOB-DTPA のその後の評価 INNERVISION 24(9):2-4, 2009
 - 16) 嶺 喜隆*、木原朝彦*、小畑秀明*、山田昌彦、森安史典 4D超音波画像の逐次的位置合わせによるラジオ波焼灼治療ナビゲーションの試み、MEDICAL IMAGING TECHNOLOGY 27(Suppl):1-10, 2009
 - 17) 森安史典 第3回ソナゾイド研究会報告集：巻頭言 肝腫瘍診断における造影超音波検査の進歩、INNERVISION 24(10):2, 2009
 - 18) 中村郁夫 (司会)、祖父尼淳 (ディスカッサー)、辻修二郎、齋藤和博、高江久仁、青木達哉、山下 智、高橋礼典 第391回東京医科大学臨床懇話会：下大静脈原発平滑筋肉腫の1例、東京医科大学雑誌 67(4) : 472-480, 2009
 - 19) Maeda T, Hong J, Konishi K, Nakatsuji T, Yasunakga T, Yamashita Y, Taketomi A, Kotoh K, Enjoji M, Nakashima H, Tanoue K, Maehara Y, Hashizume M: Tumor ablation therapy of liver cancers with an open magnetic resonance imaging-based navigation system. Surg Endosc 23: 1048-1053, 2009
 - 20) Ogura G, Nakamura R, Muragaki Y, Hashizume M, Iseki H: Development of an articulating ultrasonically activated device for laparoscopic surgery. Surg Endosc 23 (9): 2138-2142, 2009
 - 21) Ohuchida K, Kenmotsu H, Yamamoto A, Sawada K, Hayami T, Morooka K, Takasugi S, Konishi K, Ieiri S, Tanoue K, Iwamoto Y, Tanaka M, Hashizume M:

- The frontal cortex is activated during learning of endoscopic procedures. *Surg Endosc* 23(10), 2296-2301, 2009
- 22) Kobayashi Y, Onishi A, Hoshi T, Kawamura K, Hashizume M, Fujie M: Development and validation of a viscoelastic and nonlinear liver model for needle insertion. *Int J CARS* 4(1) : 53-63, 2009
- 23) Ohuchida K, Kenmotsu H, Yamamoto A, Sawada K, Hayami T, Morooka K, Hoshino H, Uemura M, Konishi K, Yoshida D, Maeda T, Ieiri S, Tanoue K, Tanaka M, Hashizume M: The effect of CyberDome, a novel 3-dimensional dome-shaped display system, on laparoscopic procedures. *Int J CARS* 4(2) : 125-132, 2009
- 24) Hong J, Hashizume M: An effective point-based registration tool for surgical navigation. *Surg Endosc.* 2009 (in press)
- 25) Tomikawa M, Akahoshi T, Sugimachi K, Ikeda Y, Yoshida K, Tanabe Y, Kawanaka H, Takenaka K, Hashizume M, Maehara Y: Laparoscopic splenectomy may be a superior supportive intervention for cirrhotic patients with hypersplenism. *J Gastroenterol Hepatol.* 2009 (in press)
- 26) Shimabukuro R, Kawanaka H, Tomikawa M, Akahoshi T, Konishi K, Yoshida D, Anegawa G, Uehara H, Hashimoto N, Hashizume M, Maehara Y: Effect of Thrombopoietin on Platelet Counts and Liver Regeneration After Partial Hepatectomy in a Rat Model. *Surgery Today* 39(12): 1054-1059, 2009
- 27) Omori S, Ishizaki Y, Sugo H, Yoshimoto J, Imamura H, Yamataka A, Kawasaki S. Direct measurement of hepatic blood flow during living donor liver transplantation in children. *J Pediatr Surg* (in press) *Journal of Pediatric Surgery*; article in press
- 28) Konishi N, Ishizaki Y, Sugo H, Yoshimoto J, Miwa K, Kawasaki S. Impact of a left lobe graft without modulation of portal flow in adult-to-adult living donor liver transplantation. *Am J Transpl* 8:170-174, 2008
- 29) 太田正之、江口英利、甲斐成一郎、平下禎二郎、北野正剛：食道・胃静脈瘤に対する内視鏡的治療 *外科*2010；72：18-23
- 30) 太田正之、甲斐成一郎、江口英利、平下禎二郎、遠藤裕一、北野正剛：食道静脈瘤出血に対する緊急止血術 *日門亢会誌*
- 31) M Miyachi, H Yazawa, M Furukawa, K Tsuboi, M Ohtake, T Nishizawa, K Hashimoto, T Yokoi, T Kojima, Takashi Murate, M Yokota, T Murohara, Y Koike, K Nagata: Exercise training alters left ventricular geometry and attenuates heart failure in dahl salt-sensitive hypertensive rats. *Hypertension.* 53(4): 701-707, 2009.
- 32) K Yamamoto, K Takeshita, T Kojima, J Takamatsu: Stress-induced PAI-1 expression is suppressed by pitavastatin in vivo. *Int J Hematol.* 89(4), 553-554, 2009.
- 33) A Takagi, R Tanaka, D Nakashima, Y Fujimori, T Yamada, K Okumura, T Murate, M Yamada, Y Horikoshi, K Yamamoto, A Katsumi, T Matsushita, T Naoe, T Kojima: Definite diagnosis in Japanese patients with protein C deficiency by identification of causative PROC mutations. *Int J Hematol.* 89(4): 555-557, 2009.
- 34) 宮田敏之、岡田浩美、川崎富夫、辻肇、窓岩清治、坂田洋一、小嶋哲人、村田満、池田康夫：日本人の血栓性素因 *臨床血液* 50(5), 381-388, 2009.
- 35) 小嶋哲人：血栓性疾患 先天性凝固阻止因子欠乏症 (antithrombin, protein C, protein S 欠損

- 症) 日本血栓止血学会誌 20(5), 484-486, 2009.
- 36) K Yamamoto, S Shibayama, K Takeshita, T Kojima, J Takamatsu: A novel cholesterol absorption inhibitor, ezetimibe, decreases adipose-derived and vascular PAI-1 expression in vivo. *Thromb Res.* 124(5): 644-645, 2009.
- 37) A Furuhata, A Kimura, K Shide, K Shimoda, M Murakami, H Ito, S Gao, K Yoshida, Y Tagawa, K Hagiwara, A Takagi, T Kojima, M Suzuki, A Abe, T Noae, T Murate: p27 deregulation by Skp2 overexpression induced by the JAK2V617 mutation. *Biochem Biophys Res Commun.* 383(4): 411-416, 2009.
- 38) A Furuhata, M Murakami, H Ito, S Gao, K Yoshida, S Sobue, R Kikuchi, T Iwasaki, A Takagi, T Kojima, M Suzuki, A Abe, T Noae, T Murate: GATA-1 and GATA-2 binding to 3' enhancer of WT1 gene is essential for its transcription in acute leukemia and solid tumor cell lines. *Leukemia.* 23(7): 1270-1277, 2009.
- 39) T Yamada, Y Fujimori, A Suzuki, Y Miyawaki, A Takagi, T Murate, M Sano, T Matsushita, H Saito, T Kojima: A novel missense mutation causing abnormal LMAN1 in a Japanese patient with combined deficiency of factor V and factor VIII. *Am. J. Hematol.* 84(11): 738-742. 2009.
- 40) R Tanaka, D Nakashima, A Suzuki, Y Miyawaki, Y Fujimori, T Yamada, A Takagi, T Murate, K Yamamoto, A Katsumi, T Matsushita, T Naoe, T Kojima: Impaired secretion of carboxyl-terminal truncated factor VII due to an F7 nonsense mutation associated with FVII deficiency. *Thromb Res.* in press.
- 41) Hitoshi Inafuku. Yuji morishima. Yukio Kuniyoshi.: A three-decade experience of radical open endvenectomy with pericardial patch graft for correction of Budd-Chiari syndrome. *Journal of Vascular Surgery,* volume50 , Number 3, 590-593, September 2009.
- 42) Nakanuma Y, Sato Y, Kitao A. Pathology and pathogenesis of portal venopathy in idiopathic portal hypertension: Hints from systemic sclerosis. *Hepatol Res* 2009;39:1023-31.
- 43) Kitao A, Sato Y, Kitamura S, Harada K, Sasaki M, Morikawa H, Shiomi S, Honda M, Matsui O, Nakanuma Y. Endothelial to mesenchymal transition via transforming growth factor-beta1/Smad activation is associated with portal venous stenosis in idiopathic portal hypertension. *Am J Pathol* 2009;175:616-26.
- 44) International Consensus Group for Hepatocellular Neoplasia The International Consensus Group for Hepatocellular Neoplasia. *Pathologic Diagnosis of Early Hepatocellular Carcinoma: A Report of the International Consensus Group for Hepatocellular Neoplasia.* *Hepatology*49(2), 658-664, 2009
- 45) International Consensus Group for Hepatocellular Neoplasia The International Consensus Group for Hepatocellular Neoplasia. *Pathologic Diagnosis of Early Hepatocellular Carcinoma: A Report of the International Consensus Group for Hepatocellular Neoplasia.* *Hepatology*49(2), 658-664, 2009
- 46) 松谷正一：腸管内容と静脈瘤血流。日本門脈圧亢進症学会雑誌 2008；14：340-341
- 47) 松谷正一：門脈圧亢進症と側副血行路 超音波医学 2009；36：319-327
- 48) Huet PM, Vincent C, Deslauriers J, Cote J, Fenyves D, Matsutani S, Boileau R, Kerckvoorde JH, Portal hypertension in primary biliary cirrhosis (PBC): A reversible condition? Yes, but not in all UDCA treated patients. *Hepatology Research* 2009; 39: 1032-1038

- 49) Okugawa H, Maruyama H, Kobayshi S, Yoshizumi H, Matsutani S, Yokosuka O. Therapeutic effect of balloon-occluded retrograde transvenous obliteration for gastric varices in relation to haemo-dynamics in the short gastric vein. *British Journal of Radiology* 2009; 82: 930-935
- 50) Eguchi S, Hidaka M, Tomonaga T, Miyazaki K, Inokuma T, Takatsuki M, Okudaira S, Yamanouchi K, Miyaaki H, Ichikawa T, Tajima Y, Kanematsu T. Actual therapeutic efficacy of pre-transplant treatment on hepatocellular carcinoma and its impact on survival after salvage living donor liver transplantation. *J Gastroenterol.* 2009;44(6):624-9.
- 51) Eguchi S, Takatsuki M, Yamanouchi K, Kamohara Y, Tajima Y, Kanematsu T. Regeneration of graft livers and limited contribution of extrahepatic cells after partial liver transplantation in humans. *Dig Dis Sci.* 2009 Mar 19.
- 52) Ichikawa T, Nakao K, Miyaaki H, Eguchi S, Takatsuki M, Fujimoto M, Akiyama M, Miura S, Ozawa E, Shibata H, Takeshita S, Kanematsu T, Eguchi K. Hepatitis C virus kinetics during the first phase of pegylated interferon-alpha-2b with ribavirin therapy in patients with living donor liver transplantation. *Hepatology Res.* 2009 Jul 13. [Epub ahead of print]
- 53) Tokai H, Kawashita Y, Ito Y, Yamanouchi K, Takatsuki M, Eguchi S, Tajima Y, Kanematsu T. Efficacy and limitation of bone marrow transplantation in the treatment of acute and subacute liver failure in rats. *Hepatology Res.* 2009 Jul 10. [Epub ahead of print]
- 54) Hidaka M, Eguchi S, Okudaira S, Takatsuki M, Tokai H, Soyama A, Nagayoshi S, Mochizuki S, Hamasaki K, Tajima Y, Kanematsu T. Multicentric occurrence and spread of hepatocellular carcinoma in whole explanted end-stage liver. *Hepatology Research* 2009 Feb;39(2):143-8.
- 55) Ichikawa T, Nakao K, Miyaaki H, Eguchi S, Takatsuki M, Fujimoto M, Akiyama M, Miura S, Ozawa E, Shibata H, Takeshita S, Kanematsu T, Eguchi K. Hepatitis C virus kinetics during the first phase of pegylated interferon-alpha-2b with ribavirin therapy in patients with living donor liver transplantation. *Hepatology Res* 2009
- 56) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Tajiri T. Partial splenic embolization. *Hepatology Reserch* 38; 225-233: 2008.
- 57) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N. et al. Simultaneous evaluation of portal hemodynamics and liver function by scintiphotosplenopography in pediatric recipients of living-donor liver transplants. *Hepatogastroenterol* 56; 819-823: 2009.
- 58) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N. et al. Interactions between anti-ulcer drugs and non-steroidal anti-inflammatory drugs in cirrhotic patients with bleeding esophagogastric varices. *Hepatogastroenterol* 56; 1366-1370: 2009.
- 59) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Tajiri T. New trends in surgical treatment for portal hypertension. *Hepatology Reserch* 39; 1044-1051: 2009.
- 60) Tajiri T, Yoshida H, Obara K. et al. General Rules for Recording Endoscopic Findings of Esophagogastric Varices (The 2nd Edition). *Digestive Endoscopy* 22; 1-9: 2010.
- 61) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N. et al. Shunting and nonshunting procedures for the treatment of esophageal varices in patients with idiopathic portal hypertension. *Hepatogastroenterol* (in press)

2. 学会発表

- 1) Moriyasu F, New advances in abdominal ultrasound (Special lecture), 12th World Congress of the World Federation for Ultrasound in Medicine and Biology (2009.8.30-2009.9.3) Sydney, Australia
- 2) Moriyasu F, Clinical role of contrast ultrasound with Sonazoid in diagnosis and treatment of hepatocellular carcinoma (Special lectures), CEUS FORUM 2009 Reports of china multicenter study in process (2009.12.11-2009.12.13) Dongguan, China
- 3) Yamada M, Sano T, Murashima E, Ichimura S, Taira J, Metoki R, Furuichi Y, Four-dimensional ultrasound(4DUS) and contrast-enhanced 4DUS in radio frequency ablation of liver tumors
2009 AIUM Annual Convention (2009.4.2-2009.4.5) New York, USA
- 4) Furuichi Y, Ichimura S, Miyata Y, Sano T, Murashima E, Taira J, Sugimoto K, Yamada M, Imai Y, Nakamura I, Moriyasu F, Sedative-free treatment of esophageal varices - the possibility of APC using nasal endoscope, Digestive Disease Week (ASGE) (2009.5.30-2009.6.4) Chicago, USA
- 5) Miyata Y, Furuichi Y, Ichimura S, Sano T, Murashima E, Taira J, Sugimoto K, Yamada M, Imai Y, Nakamura I, Moriyasu F, Safe injection method for α -cyanoacrylate monomer (CA) in the treatment of gastric fundal variceal rupture, Digestive Disease Week (ASGE) (2009.5.30-2009.6.4) Chicago, USA
- 6) Moriyasu F, Kupffer cell contrast liver imaging, 12th World Congress of the World Federation for Ultrasound in Medicine and Biology (2009.8.30-2009.9.3) Sydney, Australia
- 7) Moriyasu F, Diagnosis of liver cancer using perflubutane microbubbles, 12th World Congress of the World Federation for Ultrasound in Medicine and Biology (2009.8.30-2009.9.3) Sydney, Australia
- 8) Moriyasu F, Evaluation of ablation efficacy of liver tumors using contrast enhanced ultrasound including 3D, 12th World Congress of the World Federation for Ultrasound in Medicine and Biology (2009.8.30-2009.9.3) Sydney, Australia
- 9) Moriyasu F, Cardiovascular Imaging: Sonazoid experience in Japan, 24th Annual Advances in Contrast Ultrasound/ICUS Bubble Course 2009 (2009.10.22-2009.10.23) Chicago, USA
- 10) Ichimura S, Sugimoto K, Shiraishi J, Metoki R, Sano T, Miyata Y, Furuichi Y, Yamada M, Imai Y, Moriyasu F, Doi K, Computer-aided diagnosis for classification of liver fibrosis by use of micro flow imaging with contrast-enhanced sonography, GASTRO 2009 UEGW/WCOG, London (2009.11.21-2009.11.25) London, UK
- 11) Furuichi Y, Kawai T, Ichimura S, Miyata Y, Metoki R, Sano T, Murashima E, Taira J, Yamada M, Imai Y, Nakamura I, Moriyasu F, Usefulness of transnasal endoscopy with fice for diagnosis of recurrent esophageal varices in prospective and randomized controlled study, GASTRO 2009 UEGW/WCOG, London (2009.11.21-2009.11.25) London, UK
- 12) Furuichi Y, Kawai T, Ichimura S, Miyata Y, Metoki R, Sano T, Murashima E, Taira J, Sugimoto K, Yamada K, Yamada M, Imai Y, Nakamura I, Moriyasu F, Sedative-free treatment of esophageal varices - the possibility of APC using nasal endoscope in prospective and randomised controlled study, GASTRO 2009 UEGW/WCOG, London (2009.11.21-2009.11.25) London, UK
- 13) Sano T, Furuichi Y, Ichimura S, Miyata Y, Murashima E, Taira J, Sugimoto K, Yamada

- M, Imai Y, Nakamura I, Moriyasu F, The features of liver cirrhosis in elderly patients ~Esophageal varices recur less frequently in elderly than in younger patients, GASTRO 2009 UEGW/WCOG, London (2009.11.21-2009.11.25) London, UK
- 14) Sano T, Furuichi Y, Ichimura S, Miyata Y, Murashima E, Taira J, Sugimoto K, Yamada M, Imai Y, Nakamura I, Moriyasu F, Clinical features of alcoholic liver cirrhosis- from a study of recurrent esophageal varices comparing alcoholic and viral liver cirrhosis-, GASTRO 2009 UEGW/WCOG, London (2009.11.21-2009.11.25) London, UK
- 15) Sugimoto K, Shiraishi J*, Moriyasu F, Ichimura S, Metoki R, Doi K*, Ultrasound/ Gastrointestinal series; Contrast agents in US : Micro flow imaging of chronic liver disease for assessment of liver fibrosis with contrast-enhanced sonography: preliminary experience, RSNA2009(2009.11.29-2009.12.4) Chicago, USA
- 16) Moriyasu F, Sonazoid contrast ultrasound in diagnosis and therapeutic efficacy evaluation of liver tumorous diseases, 11th International Symposium on ultrasound contrast imaging, 1st Asia-pacific conference on ultrasound contrast imaging (2009.12.17-2009.12.20) KunMing, China
- 17) 森安史典 造影超音波による肝癌の治療支援 (特別講演)、第30回兵庫肝炎研究会 (2009.1.10) 神戸
- 18) 森安史典 造影超音波による肝癌の治療支援 (特別講演)、第2回腹部画像診断勉強会 (2009.2.26) 大阪
- 19) 今井康晴、佐野隆友、村嶋英学、宮田祐樹、市村茂輝、平良淳一、目時 亮、古市好宏、山田昌彦、中村郁夫、森安史典 肝疾患におけるソナゾイド造影超音波の検査条件：当科における APLIO による肝腫瘍性病変のソナゾイド造影超音波 (パネルディスカッション)、第26回超音波ドプラ研究会 (2009.3.14) 東京
- 20) 古市好宏、河合 隆、森安史典 細径内視鏡を応用した技術の展開：鎮静剤を用いない食道静脈瘤治療～経鼻内視鏡下 APC 法の可能性～ (ビデオシンポジウム)、第77回日本消化器内視鏡学会総会 (2009.5.21-2009.5.23) 名古屋
- 21) 森安史典 消化器悪性腫瘍に対する強力収束超音波 (HIFU) 治療 (ランチョンセミナー)、日本超音波医学会第82回学術集会 (2009.5.22-2009.5.24) 東京
- 22) 森安史典 造影超音波の現在と未来 (教育講演)、日本超音波医学会第82回学術集会 (2009.5.22-2009.5.24) 東京
- 23) 杉本勝俊、白石順二、市村茂輝、平良淳一、目時 亮、山田昌彦、今井康晴、土井邦雄*、森安史典 異分野との融合による超音波イメージングの新展開：造影超音波におけるコンピュータ支援診断 (CAD) (シンポジウム)、日本超音波医学会第82回学術集会 (2009.5.22-2009.5.24) 東京
- 24) 森安史典、佐野隆友、祖父尼淳、山田幸太、山田昌彦、今井康晴 超音波診断と治療技術の融合：マイクロバブル超音波造影剤を使った、肝がん、膵がんの治療支援 (シンポジウム)、日本超音波医学会第82回学術集会 (2009.5.22-2009.5.24) 東京
- 25) 山田昌彦、肝腫瘍診断における造影超音波の位置づけ：4D超音波による RFA の治療ガイドと効果判定 (シンポジウム)、日本超音波医学会第82回学術集会 (2009.5.22-2009.5.24) 東京
- 26) 森安史典 肝画像診断 (超音波) (ハイライトレクチャー)、第45回日本肝臓学会総会 (2009.6.4-2009.6.5) 神戸
- 27) 山田昌彦、村嶋英学、市村茂輝、平良淳一、杉本勝俊、目時 亮、古市好宏、今井康晴、中村郁夫、森安史典 画像診断の進歩：造影超音波の3Dボリュームの位置あわせソフトを用いた RFA の効果判定 (ワークショップ)、第45回日本肝臓学会総会 (2009.6.4-2009.6.5) 神戸

- 28) 市村茂輝、古市好宏、宮田祐樹、目時 亮、佐野隆友、村嶋英学、平良淳一、山田昌彦、今井康晴、中村郁夫、森安史典、河合 隆 難治性胃・食道静脈瘤に対する治療—工夫と対策—：胃・十二指腸静脈瘤治療に対する透明フードを使用した CA 注入法の有用性（ワークショップ）、第88回日本消化器内視鏡学会関東地方会（2009.6.12-2009.6.13）東京
- 29) 古市好宏、河合 隆、市村茂輝、宮田祐樹、目時 亮、佐野隆友、村嶋英学、平良淳一、山田昌彦、今井康晴、森安史典 経鼻内視鏡の現状と問題点：FICE 機能が経鼻内視鏡診断に与える影響～再発性食道静脈瘤の検討から～（ワークショップ）、第88回日本消化器内視鏡学会関東地方会（2009.6.12-2009.6.13）東京
- 30) 今井康晴、HIFU（強力収束超音波）による肝癌・膵癌の治療（特別講演）、第27回 Digestive-Diseases Conference in West Tokyo (2009.6.23) 東京
- 31) 今井康晴、佐野隆友、村嶋英学、宮田祐樹、市村茂輝、平良淳一、目時 亮、山田幸太、古市好宏、柳澤京介、山田昌彦、中村郁夫、森安史典 経カテーテル治療（門脈塞栓術を含む）：Gd-EOB-DTPA 造影 MRI の data を用いた RVS（ビデオセッション）、第45回日本肝癌研究会（2009.7.3-2009.7.4）福岡
- 32) 森安史典 門脈圧亢進症の画像診断（特別講演）、第18回 近畿食道・胃静脈瘤研究会（2009.8.22）大阪
- 33) 古市好宏、宮田祐樹、市村茂輝、目時 亮、佐野隆友、村嶋英学、平良淳一、山田昌彦、今井康晴、中村郁夫、森安史典 外科的治療が必要な静脈瘤を探る：難治性静脈瘤に対する治療法（ワークショップ）、第16回日本門脈圧亢進症学会総会（2009.9.10-2009.9.11）郡山
- 34) 古市好宏、市村茂輝、宮田祐樹、目時 亮、佐野隆友、村嶋英学、平良淳一、山田昌彦、今井康晴、中村郁夫、森安史典 肝硬変において B-RTO が肝内循環動態を正常化する可能性～造影超音波検査による Arrival Time の検討から～（プレナリーセッション）、第16回日本門脈圧亢進症学会総会（2009.9.10-2009.9.11）郡山
- 35) 古市好宏、宮田祐樹、市村茂輝、目時 亮、佐野隆友、村嶋英学、平良淳一、山田昌彦、今井康晴、中村郁夫、森安史典 再発性食道静脈瘤診断における FICE 機能の有用性～経鼻内視鏡の検討から～（プレナリーセッション）、第16回日本門脈圧亢進症学会総会（2009.9.10-2009.9.11）郡山
- 36) 今井康晴、佐野隆友、山田幸太、村嶋英学、宮田祐樹、市村茂樹、平良淳一、杉本勝俊、古市好宏、山田昌彦、森安史典 イメージガイド下焼灼療法（RFA,HIFU）：RFA および HIFU による肝癌に対する local ablation therapy（ワークショップ）、日本ハイパーサーミア学会第26回大会（2009.9.11-2009.9.12）千葉
- 37) 今井康晴 肝腫瘍におけるソナゾイド造影超音波検査の工夫：肝腫瘍性病変に対する Sonazoid 造影超音波検査の問題点と工夫（主題演題）、第27回超音波ドプラ研究会（2009.9.12）東京
- 38) 森安史典 造影超音波—最近の話題—（特別講演）、苫小牧腹部エコーを診る会（2009.9.17）苫小牧
- 39) 森安史典 造影超音波の現状と展望（教育講演）、第23回日本臨床内科医学会（2009.10.11-2009.10.12）大宮
- 40) 杉本勝俊、白石順二*、森安史典 非侵襲的肝病態評価法の進歩：慢性肝疾患評価におけるソナゾイド造影超音波検査の有用性（パネルディスカッション）、第13回日本肝臓学会大会・第51回日本消化器病学会大会合同（2009.10.14-2009.10.17）京都
- 41) 今井康晴、古市好宏、森安史典、肝・胆道疾患における栄養療法—NST のあり方—：肝細胞癌 RFA 患者における肝硬変栄養療法サポートチームによる介入の効果（ワークショップ）、第13回日本肝臓学会大会・第40回日本消化吸収学会総会合同（2009.10.14-2009.10.17）京都
- 42) 山田昌彦、造影超音波診断の Up-to-Date (特別講演)、第28回 Digestive-Diseases Conference

- in West Tokyo (2009.12.15) 東京
- 43) 目時 亮、佐野隆友、村嶋英学、市村茂輝、平良淳一、古市好宏、柳澤京介、山田昌彦、今井康晴、中村郁夫、斎藤和博、森安史典 Gd-EOB-DTPA 造影 MRI の肝臓診断における有用性、第46回臨床肝臓懇話会 (2009.3.14) 東京
- 44) 古市好宏、宮田祐樹、市村茂輝、目時 亮、佐野隆友、村嶋英学、平良淳一、柳澤京介、山田昌彦、今井康晴、糸井隆夫、森安史典 食道静脈瘤診断における新しい超音波内視鏡検査法～ガイドワイヤー留置下超音波内視鏡検査法の考案～、第95回日本消化器病学会総会 (2009.5.7-2009.5.9) 札幌
- 45) 市村茂輝、古市好宏、目時 亮、宮田祐樹、佐野隆友、村嶋英学、平良淳一、柳澤京介、山田昌彦、今井康晴、中村郁夫、森安史典 門脈病変の造影超音波診断一次世代造影剤とMFIを使った新しい診断法一、第95回日本消化器病学会総会 (2009.5.7-2009.5.9) 札幌
- 46) 佐野隆友、古市好宏、宮田祐樹、市村茂輝、村嶋英学、平良淳一、目時 亮、柳澤京介、山田昌彦、今井康晴、中村郁夫、森安史典 アルコール性肝硬変の特徴～ウイルス性肝硬変と比較した食道静脈瘤再発の検討から～、第95回日本消化器病学会総会 (2009.5.7-2009.5.9) 札幌
- 47) 山田昌彦、村嶋英学、市村茂輝、平良淳一、杉本勝俊、目時 亮、古市好宏、今井康晴、中村郁夫、森安史典 4D造影超音波によるRFAの治療ガイドと効果判定、第95回日本消化器病学会総会 (2009.5.7-2009.5.9) 札幌
- 48) 宮田祐樹、古市好宏、市村茂輝、佐野隆友、村嶋英学、平良淳一、目時 亮、柳澤京介、山田昌彦、今井康晴、中村郁夫、森安史典 肝硬変症に合併した門脈血栓症の4例、第95回日本消化器病学会総会 (2009.5.7-2009.5.9) 札幌
- 49) 今井康晴、佐野隆友、村嶋英学、宮田祐樹、市村茂輝、平良淳一、目時 亮、古市好宏、柳澤京介、山田昌彦、中村郁夫、森安史典 肝細胞癌に対してRFAを施行した肝硬変患者における栄養療法一栄養指標の検討、第95回日本消化器病学会総会 (2009.5.7-2009.5.9) 札幌
- 50) 宮田祐樹、古市好宏、森安史典 孤立性胃静脈瘤破裂症例におけるCA注入法～当科の経験から～、第77回日本消化器内視鏡学会総会 (2009.5.21-2009.5.23) 名古屋
- 51) 市村茂輝、古市好宏、目時 亮、宮田祐樹、佐野隆友、村嶋英学、平良淳一、山田昌彦、今井康晴、中村郁夫、森安史典、河合 隆、異所性および胃静脈瘤治療に対するCA注入法における透明フードの有用性、第77回日本消化器内視鏡学会総会 (2009.5.21-2009.5.23) 名古屋
- 52) 今井康晴、佐野隆友、村嶋英学、宮田祐樹、市村茂輝、平良淳一、目時 亮、古市好宏、山田昌彦、森安史典 Gd-EOB-DTPA 造影 MRI の data を用いたRVS、日本超音波医学会第82回学術集会 (2009.5.22-2009.5.24) 東京
- 53) 中村郁夫、落合香織*、森安史典、井廻道夫* 慢性C型肝炎・肝硬変症例におけるNatural Killer細胞活性に関する検討、第45回日本肝臓学会総会 (2009.6.4-2009.6.5) 神戸
- 54) 今井康晴、佐野隆友、村嶋英学、宮田祐樹、市村茂輝、平良淳一、目時 亮、古市好宏、柳澤京介、山田昌彦、中村郁夫、森安史典 EOBプリモビスト造影MRIのdataを用いたReal-time virtual sonography、第45回日本肝臓学会総会 (2009.6.4-2009.6.5) 神戸
- 55) 市村茂輝、古市好宏、宮田祐樹、佐野隆友、村嶋英学、平良淳一、山田幸太、杉本勝俊、山田昌彦、今井康晴、森安史典、河合 隆 透明フードを使用したCA注入法による異所性・胃静脈瘤の内視鏡的治療、第16回日本門脈圧亢進症学会総会 (2009.9.10-2009.9.11) 郡山
- 56) 宮田祐樹、古市好宏、市村茂輝、佐野隆友、村嶋英学、平良淳一、杉本勝俊、山田幸太、山田昌彦、今井康晴、中村郁夫、森安史典 下大静脈から直接穿刺によるTIPSの一例～難治性腹水を併発したBCSの症例から～、第16回日本門脈圧亢進症学会総会 (2009.9.10-2009.9.11) 郡山
- 57) 佐野隆友、古市好宏、市村茂輝、宮田祐樹、村

- 嶋英学、平良淳一、目時 亮、山田昌彦、今井康晴、中村郁夫、森安史典 高齢肝硬変症例における食道静脈瘤再発の特徴、第16回日本門脈圧亢進症学会総会（2009.9.10-2009.9.11）郡山
- 58) 市村茂輝、古市好宏、宮田祐樹、佐野隆友、村嶋英学、平良淳一、山田幸太、杉本勝俊、山田昌彦、今井康晴、中村郁夫、森安史典 胃静脈瘤に対する So-EIS 施行後に心タンポナーデを生じた IPH の一例、第16回日本門脈圧亢進症学会総会（2009.9.10-2009.9.11）郡山
- 59) 安藤真弓、古市好宏、市村茂輝、宮田祐樹、佐野隆友、村嶋英学、平良淳一、目時 亮、杉本勝俊、山田幸太、山田昌彦、今井康晴、中村郁夫、森安史典 治療抵抗性を示す Gastic antral vascular ectasia (GAVE)、第11回肝不全治療研究会（2009.9.11）郡山
- 60) 佐野隆友、古市好宏、宮田祐樹、市村茂輝、目時 亮、村嶋英学、平良淳一、杉本勝俊、山田幸太、山田昌彦、今井康晴、中村郁夫、森安史典 アルコール性肝硬変における食道静脈瘤再発の特徴、第11回肝不全治療研究会（2009.9.11）郡山
- 61) 今井康晴 QOL アセスメントと栄養治療：患者 QOL と栄養アセスメント、第1回 OTSUKA 肝臓栄養治療フォーラムー栄養治療とアセスメントー（2009.10.3）東京
- 62) 古市好宏、宮田祐樹、市村茂輝、目時 亮、佐野隆友、村嶋英学、平良淳一、山田昌彦、今井康晴、中村郁夫、森安史典 難治性静脈瘤とその対策、第51回日本消化器病学会大会（2009.10.14-2009.10.17）京都
- 63) 古市好宏、宮田祐樹、市村茂輝、佐野隆友、村嶋英学、平良淳一、目時 亮、釜本寛之、山田昌彦、今井康晴、中村郁夫、森安史典 飲酒による門脈圧への影響～アルコール性肝硬変による食道静脈瘤の検討から～、第13回日本肝臓学会大会（2009.10.14-2009.10.16）京都
- 64) 山田昌彦、村嶋英学、市村茂輝、宮田祐樹、平良淳一、杉本勝俊、山田幸太、古市好宏、今井康晴、中村郁夫、森安史典、4D 超音波ガイドによる RFA と位置合わせソフトを使用した造影4Dおよび 3D 超音波による治療効果判定、第13回日本肝臓学会大会（2009.10.14-2009.10.16）京都
- 65) 市村茂輝、古市好宏、宮田祐樹、目時 亮、佐野隆友、村嶋英学、平良淳一、山田昌彦、今井康晴、中村郁夫、森安史典、河合 隆、内視鏡的 CA・EO 併用注入法にて治療可能であった十二指腸静脈瘤の3例、第78回日本消化器内視鏡学会総会（2009.10.14-2009.10.17）京都
- 66) Furuichi Y, Kawai T, Ichimura S, Miyata Y, Metoki R, Moriyasu F.
Usefulness of transnasal endoscopy with FICE for diagnosis of recurrent esophageal varices in prospective study. Gastro 2009 UEGW/WCOG. London 2009. 11. 21-25
- 67) 古市好宏、河合 隆、市村茂輝、目時 亮、森安史典 経鼻内視鏡の現状と問題点：FICE 機能が経鼻内視鏡診断に与える影響～再発性食道静脈瘤の検討から～第88回日本消化器内視鏡学会関東地方会. 東京. 2009. 6. 12-13
- 68) 小西晃造、赤星朋比古、富川盛雅、橋爪 誠：バッドキアリ症候群に対する流体力学解析～臨床例の検討～ 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 門脈血行異常症に関する調査研究（H20- 難治- 一般- 26）平成21年度第1回班会議. 2009年12月7日、東京
- 69) 小西晃造、富川盛雅、橋爪 誠：検体保存センターの登録及びデータ解析について 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 門脈血行異常症に関する調査研究（H20- 難治- 一般- 26）平成21年度第1回班会議 2009年12月7日 東京
- 70) 小西晃造、富川盛雅、赤星朋比古、田上和夫、橋爪 誠、前原喜彦：流体工学シミュレーションを用いた Budd-Chiari 症候群病態解析の試み 第87回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2009年6月19日、福岡
- 71) 太田正之、甲斐成一郎、江口英利、平下禎二郎、

- 北野正剛：当科における食道胃静脈瘤の治療方針とその成績. 第16回日本門脈圧亢進症学会総会 2009.9.10-11、郡山、シンポジウム.
- 72) 前原喜彦、橋本直隆、下田慎治、赤星朋比古：第45回肝臓学会総会（2009年）
一般演題口演「肝硬変症脾臓における抗原提示細胞の機能解析」
- 73) 前原喜彦、橋本直隆、下田慎治、赤星朋比古、第16回日本門脈圧亢進症学会総会（2009年）
シンポジウム「肝硬変症脾臓における臓器特異的T細胞の機能解析」
- 74) 宮脇由理、鈴木敦夫、藤森祐多、山田貴之、高木 明、村手 隆、小嶋哲人：重症血友病Aを引き起こす血液凝固第VIII因遺伝子逆位の新解析法～Inverse Shifting-PCR法～ 第10回愛知県医学検査学会、津島
- 75) 鈴木敦夫、中島大輔、宮脇由理、藤森祐多、山田貴之、高木 明、村手 隆、小嶋哲人：遺伝性出血性末梢血管拡張症の1症例 第10回愛知県医学検査学会、津島
- 76) 山田貴之、藤森祐多、鈴木敦夫、宮脇由理、高木 明、村手 隆、松下 正、佐野雅之、齋藤英彦、小嶋哲人：新規遺伝子変異による血液凝固第V・VIII因子合併欠損症の分子病態解析 第32回日本血栓止血学会学術集会、北九州
- 77) 鈴木伸明、松下 正、中山享之、西田徹也、勝見 章、高松純樹、山本晃士、平島寛司、小嶋哲人、直江知：酢酸デスマプレッシン(DDAVP)で小手術管理を行った後天性血友病Aの一例 第32回日本血栓止血学会学術集会、北九州
- 78) 宮脇由理、鈴木敦夫、藤森祐多、山田貴之、高木 明、村手 隆、小嶋哲人：重症血友病Aにおける血液凝固第VIII因遺伝子の逆位解析法～Long PCRとInverse Shifting-PCR法～ 第10回日本検査血液学会学術集会、甲府
- 79) A Suzuki, N Sanda, K Makita, Y Miyawaki, Y Fujimori, T Yamada, A Takagi, T Murate, H Saito, T Kojima:Down-regulation of protein S expression by 17 β -estradiol in HepG2 cells. XXIIIrd Congress of International Society on Thrombosis and Haemostasis, Boston, USA
- 80) T Yamada, Y Fujimori, A Suzuki, Y Miyawaki, A Takagi, M Sano, T Matsushita, H Saito, T Kojima:A novel homozygous missense mutation in the *LMAN1* gene in a Japanese patient with combined factors V and VIII deficiency. XXIIIrd Congress of International Society on Thrombosis and Haemostasis, Boston, USA.
- 81) A Suzuki, Y Miyawaki, Y Fujimori, T Yamada, A Takagi, T Murate, H Saito, T Kojima : Down-regulation of protein S expression by 17 β -estradiol in HepG2 cells. 第71回日本血液学会総会、京都
- 82) 鈴木敦夫、小嶋哲人：血栓性素因部会シンポジウム「血栓性素因・プロテインS欠乏症/欠損症をめぐる最近の話題」女性ホルモンとプロテインS欠乏症 SSCシンポジウム2009、東京
- 83) A Suzuki, Y Miyawaki, Y Fujimori, T Yamada, A Takagi, T Murate, H Saito, T Kojima:Anticoagulant protein S expression is down-regulated by ERalpha/Sp1 interaction recruiting NCoR/SMRT and HDAC3 in HepG2 cells. 第32回日本分子生物学会年会、横浜
- 84) 稲福 斉、前田達也、喜瀬勇也、盛島裕次、永野貴昭、新垣勝也、山城 聡、國吉幸男. 全肝静脈閉塞の Budd-Chiari 症候群に対する直視下根治術の効果の検討. 第39回日本心臓血管外科学会. 富山. 2009. 4. 22.
- 85) 北尾 梓、佐藤保則、原田憲一、佐々木素子、松井 修、中沼安二. 特発性門脈圧亢進症 (IPH) における TGF- β ・アンタゴニスト BMP 7 の発現とその役割. 第45回日本肝臓学会総会、2009年6月、神戸.
- 86) Matsutani S, Fukuzawa T, Mizumoto H, Suzuki Y Sonographic assessment of early porta l hypertension in patients with compensated chronic liver diseases. Annual